



2024年元旦の出来事

豊栄病院

相 羽 路 子

「あれ、なんか今揺れた!」2024年1月1日夕方の出来事だ。私はちょうど豊栄病院で日直勤務中だった。元旦のためか、来院患者さんの数は普段より少なく、このまま勤務が終わると良いなと思いつつ、救急外来の電子カルテに向かっていた最中のこと。突然の揺れが襲った。能登半島地震である。

揺れている時間も長かったように感じた。慌てて病院玄関近くのテレビに向かうと、「新潟市震度5強～6弱、震源地は石川県能登半島。新潟市も津波の恐れあり、避難してください」との情報飛び込んできた。

「子供たちは!」と真っ先に子供のことが頭に浮かび、自宅にいる夫にすぐさまLINEをした。子供たちは午後のお昼寝タイムから目覚めたばかりで怪我もなく無事、との返事が返ってきた。

ひとまず胸をなで下ろし、病院内のことに意識が戻る。よりによって、元旦で院内にいるドクターは日直医の私一人のみ・・・なのにも関わらず想定外の事態にボヤッと突っ立っている私に対し、同じ日に一緒に組んでいた日勤看護師は、不幸中の幸い、しっかり者の師長さんだった。彼女がテキパキと指示を出して、各病棟のリーダーに入院患者さん一人一人の安全を確認するよう伝え、全員の無事を報告するように伝達してくれていた。

テレビでも情報は錯綜しており、新潟市への津波の注意を呼びかけている状況は続いていた。

そんな中驚いたのは、トランクケースや大きな荷物を担いだ人達が、次から次へと病院の正面玄関から走り込んできたことだ。病院の近くに住む住民たちである。地震発生直後、津波警報の発令を受けて近隣住民が続々と避難してきたのだ。新潟市の資料によると、新潟市で14,000人、北区で

も1,000人程度が避難したとある。豊栄は沿岸部に位置していないものの、記載された名簿から200名強の方が当院に避難してきたことが後日分かった。

「ここは海拔何メートルですか」、「豊栄病院の耐震性はどんなのでしょうか」と普段働いている時には聞かれない質問に戸惑いつつ、当時院長だった宮島透先生が「豊栄病院は頑丈です」と言っておられたことを思い出して「病院は安全です、大丈夫ですよ」などと声かけをしながら、2階の多目的ホールへ誘導した。避難してこられる人や患者さんの中で不安でパニックになったり体調不良を訴えられる方もいて、診察に回ったり声をかけたり、とにかく息もつく間もないほどの緊迫した状況だった。

そんな中で、日直職員だけでなく、何か出来ることはないかと非番職員も急遽駆けつけてくれて支援に当たってくれたことは、すごく心強かった。

ちょうど夕飯時だったので、栄養科の調理師が「揺れは一旦落ち着いているけれど、火を使ってよいでしょうか」と相談しに来た。「院内に食料も確保してあるはずで、それを使うべき時でしょうか」などの話も出て、電話も通じにくい状況の中、私たちだけで決められるものでもないでしょうか・・・と悩んでいたところで、院長先生が遂に病院に到着。この時の安堵感と言うまでもない。一気に肩の力が抜けていく感じだった。

カオス状態であった院内も、院長の統率や地震の状況が明確になるにつれ収束に向かったが、私にとっては一生忘れられない出来事となった。

私は豊栄病院へ赴任して約5年が経つ。それぞれの病院に特徴があるように思うが、豊栄病院は、新潟市北区の地域密着型の病院で、患者層として

は農業を営んでいるご高齢の方が多く、患者さん同士も家族や親戚だったり、知り合いだったりと繋がっていたりする。今回避難されてきた人も、かかりつけの患者さんやそのご家族が多い印象で、見かけたことのある方も何人もおられた。市の指定避難場所ではない豊栄病院に多くの方が自主避難されてきたということは、正月休みのため公民館が開いていなかったなどの理由もあると思うが、病院は地域の人にとってより身近な存在になっているのではと思えた。

豊栄の地域医療に携わる中で色々感じることもある。家事育児との両立には制約や壁があり、日々綱渡りのような試行錯誤の連続だが、同じ消化器内科の先輩方や他科の先生方に温かいご指導を頂きつつ、仲間の女性医師と悩みを共有し、支え合って働くことができている。地域医療は、一般内科

の診療スキルを身につけるだけではなく、患者さんの生活背景や個別性を踏まえた方針を立てていくことが必要だと思うが、多様なケースがあって正解はなく、本当に難しいと感じる。それでも、地域の方との距離が近く、畑で取れた野菜の差し入れと共に感謝の言葉をかけてくださったり、退院してご家族と一緒に買い物をしている患者さんを見かけたりすると、嬉しい気持ちになり、モチベーションも上がる。

現院長の関慶一先生が「やさしい病院づくりで地域医療を支えていく」とおっしゃっておられるように、私も経験を積み重ねながら、患者さん一人一人に寄り添った丁寧な診療を心がけ、地域医療に少しでも貢献できるように精進していけたらなと思う。

